

令和3年度

事業報告

社会福祉法人 愛友会

はじめに

令和3年度は前年度から続くコロナ禍により、生活全般において活動が縮小され、多くの事が制限をされることとなりました。日常生活でのドライブや外出、買い物、旅行、そして家族との面会や帰省、また職員は研修関係もかなり少なくなり、開催されるほぼすべてがパソコンによるZoom研修に変化しました。併せて、県内や近隣市町村の感染状況や警報による自粛に従う生活となりました。特に年が明けてからの感染者の増加や、県内における障害者施設や介護施設等のクラスターも頻繁に発生し、非常に気遣いが多い年度となりました。しかし、十分感染予防を徹底した効果はあり、施設内や勤務する職員や家族が感染することなく無事に過ごすことができたことは、大きな成果と考えております。

また、今年度1月には一部の方は劇的な感染者の減少により帰省を実施致しましたが、利用者様、ご家族の皆様には2年間に渡り面会等が出来ない状況が続いてしまい非常に申し訳なく思っています。今後は多方面から打開策を講じて行きたいと考えております。

しかし、このようなコロナ禍の中、着々とA棟の改築は予定通り進められ、事故無く予定どおり2月には完成し、3月には新A棟に無事引越しをすることができました。これも施設利用者・職員、設計及びたくさんの建設業者の皆様、関係者の皆様の努力がこの成果につなげることができたと、心から感謝を申し上げます。以下令和3年度の事業報告とします。

1. 主な事業の経過

月	日	内 容	説 明	場 所 等
4	1	歯科検診	利用者の歯科診 (富岡甘楽口腔保健センターの協力)	施設内
	5	花見	花見ドライブ(コロナ対応)	近隣市町村
	10	保護者会役員会	事業計画案等	四ツ谷
	19	摂食嚥下研究会	委員会	施設内
	23	定期健康診断	嘱託医による定期健康診断	
	10	胸部レントゲン検診	松井田病院検診車	施設内
	12	カラオケ大会	利用者主体	施設内
	14	法人監事の監査	令和2年度事業内容全般の監査	施設内
	27	法人理事会	令和2年度事業報告・決算 他	施設内
6	4	福祉協会総会	群馬県知的障害者福祉協会総会	前橋市
	9	映画観賞会	施設内で映画鑑賞	施設内
	12	保護者会役員会	保護者会総会・役員会	四ツ谷
	18	法人評議員会・理事会	法人理事、監事・評議員	施設内
7	6	コロナワクチン接種開始	コロナワクチン接種開始	大竹医院
	12	サビ管部会	サービス管理者部会	施設内
	20	沼田旅行(日帰り)	利用者4名・職員4名	沼田方面
	22	榛名山旅行	利用者5名・職員5名	榛名方面

月		内 容	説 明	場所等
8	6	夏季特別研修	Zoom 職員 2 名	施設内
	10	納涼祭	施設内 利用者 48 名・職員 31 名	施設内
	23	育英短期大学実習	実習生 2 名	施設内
9	1	歯科検診	利用者 48 名	施設内
	12	作業棟完成 引越し	各日中活動	施設内
	16	風水害訓練	風水害想定対応訓練	施設内
	21	幹線道路清掃	わかば会美化活動	施設内
10	8	草津旅行（日帰り）	利用者 6 名・職員 5 名	施設内
	9	行動援護従事者研修	Zoom 職員 2 名	施設内
	12	発達障害者支援者養成研修	Zoom 職員 2 名	施設内
	13	草津日帰り旅行	利用者 5 名・職員 5 名	施設内
	14	第三者評価利用者調査	利用者 33 名・調査者 4 名	施設内
	15	理事会	理事 6 名・監事 2 名・職員 3 名	施設内
	19	発達障害者支援者養成研修	Zoom 職員 2 名	施設内
	20	伊香保日帰り旅行	利用者 4 名・職員 4 名	県内
	21	みなかみ日帰り旅行	利用者 5 名・職員 6 名	県内
	22	インフルエンザ予防接種	利用者・職員	施設内
	25	施設内研修	職員 20 名	施設内
	28	非常食提供訓練	職員 10 名	施設内
	29	期日前投票	利用者 14 名	富岡市
30	行動援護従事者研修	Zoom 職員 2 名	施設内	
11	1	サビ管研修	職員 1 名	県庁
	2	群馬サファリ旅行（日帰り）	利用者 7 名・職員 6 名	県内
	5	群馬サファリ旅行（日帰り）	利用者 7 名・職員 6 名	県内
	8	インフルエンザ予防接種	職員利用者	大竹医院
	10	焼き芋大会	利用者・職員	施設内
	11	研究発表会（発表担当）	職員 2 名	施設内
	18	職場内研修（虐待防止）	職員 20 名	施設内
	24	こんにやく贈呈式	こんにやく協同組合 4 名	施設内
12	16	クリスマス会ステージ	利用者・職員	施設内
	30	冬季帰省	利用者 6 名	都内
1	3	新年会	利用者・職員	施設内
	4	帰省帰園日	利用者 5 名	都内
	11	次年度旅行説明会	利用者・職員	施設内
	16	保護者面会（車両移動者）	利用者 3 名家族	施設内
	20	富岡市監査	富岡市 2 名・	施設内
	21	委員会総括	職員 20 名	施設内

2	4	東京都大規模修繕会計検査	資料提出 立ち合いなし	都庁内
	17	事業計画総括会	職員 22 名	施設内
	18	コロナワクチン 3 回目接種	利用者・職員	大竹医院
	21	育英短大実習	実習生 1 名	施設内
3	1	A 棟施主検査	施設長・職員	施設内
	8	A 棟工事完了に伴う引越し	職員・利用者	施設内
	15	東京都 A 棟官僚検査	東京都職員 3 名	施設内
	18	理事会	定時理事会 理事・監事・職員	施設内
	22・23	血液検査	利用者	施設内
	31	退職職員送別会	利用者・職員	施設内

2. 運営費収支の状況

(1) 社会福祉法人 愛友会決算状況

事業活動収入は報酬改定や加算の変更なく、前年同様の収入となる。

事業活動支出は A 棟・作業棟改築および地域交流ホーム等既存建物改修、水道本管移設等に伴う修繕や什器備品の購入等により増加した。施設整備の為の借入金 6,840 万円が年度末に入金されたが使用しなかった為、今年度の事業活動収支は約 8,500 万円を超える収支差額となる、改築前の積立金 2 億円に戻し、さらに今年度の収支活動差額の約 1,000 万円を積み立て令和 3 年度末の建設積立金は 2 億 1,000 万円となる決算になった。

1. 健康管理

利用者の高齢化や重度化に伴い、全般の健康状況としては下記の通りとなっています。

(1) 健康状況

領域	症状など	人数
循環器系等	①血流の循環不全や血栓に留意が必要な人。	16 名
	②嚥下機能が低下している人（誤嚥、肺炎、窒息等）	29 名
消化器系等	①食欲が低下し、低栄養が心配されている人。	13 名
	②慢性的な便秘で、下剤の服用や浣腸等の処置が必要な人	34 名
	③尿路感染症等に留意が必要な人。	10 名
下肢筋力の低下	車椅子の介助と歩行に付き添いが必要な人。	12 名
情緒面の見守り	精神薬を服用している人。	35 名

(2) 利用者の入院

延べ 8 名（男性 5 名、女性 3 名）が入院し、入院日数は 592 日間でした。入院中は面会が制限されている中で、病院との連携を継続しました。

(3) 利用者の死亡

主治医と連携し、最期を看取ることができました。葬儀は富岡市内の斎場で営まれ、職員も参列させていただき、遺族から感謝の意をいただきました。

亡くなった方	年月日	病名	経過
80歳男性	令和3年11月20日	多臓器不全	施設の支援で、余命の診断から1年4ヶ月延命されました。

(4) 利用者の事故

職員からの気づきの提案と日常的な事故を考える委員会を主体とした安全対策を継続していましたが、3件の骨折する事故がありました。

利用者	発生日	経緯
83歳女性	令和3年10月13日	居室で転び、右足第一趾骨折する。
62歳男性	令和3年10月19日	男性利用者に押され、右尺骨骨頭骨折する。
60歳女性	令和3年10月25日	入院中にベッドから落ちて、左鎖骨骨折する。

(5) 新型コロナウイルス予防対策

利用者	
日常の予防	毎日の体調管理、マスクの着用、手洗い励行、不要、普及の外出の自粛、3密の回避、建物内の消毒や換気等を継続しました。
ワクチン接種	大竹外科胃腸科にて、第1～2回目の接種は7～8月にかけて、3回目は令和4年2～3月にかけて利用者及び職員の接種を行ないました。
衛生品等の補充	マスク、消毒液、その他の備品管理及び、人が集まる場所には空気清浄機を設置し、衛生環境の保持を継続しました。

(6) インフルエンザ、ノロウイルス予防対策

ウォーキングや運動を通じて体力をつけるとともに、日常の手洗い、うがいの励行と棟内清掃を継続するとともに、10月～11月に嘱託医と大竹外科胃腸科病院による予防接種を全員（利用者、短期入所者、職員）行なった結果、罹患者の発症を防ぐことができました。

2. 利用者支援

(1) 個別支援計画の実践

サービス管理責任者が個別支援会議を招集し、(本人、ケース担当、看護師、栄養士、行政機関、主治医等) 本人と保護者の意向を踏まえた案を作成し、支援員会議で検討し、本人の同意(計画内容の理解の促進)を経て支援を実践しました。

保護者の意見や考えを聞き取る場を設けることが困難な保護者には、個別支援計画書(案)を郵送し、意見の集約と同意を得ながら進めました。以後は中間の期間で評価(モニタリング)し、再度、個別支援計画書の作成と実践を継続しています。

(2) 摂食・嚥下の取り組み

NPO法人代表の山川医師を招いた委員会活動は下記の通りに実践をしました。

項目	実践内容	
毎月の研究会	診断を踏まえ、評価を行ない食事形態と本人の嗜好との調整を継続しました。診断と本人の意向に添った食事の形態は以下の通りとなりました。	
	食事の形態	人数

	常食で支障がない人	18名
	診断の理解が得られず常食を提供している人	2名
	軟飯、ペースト、刻み食等の提供が必要な人	28名
食事の提供	安全面は個々の形態に合った食事を提供し、窒息や誤嚥予防を継続しました。必要な方は個別に支援を行いました。	
咀嚼訓練	特に窒息等の危険性が高い人と若年層（20歳～30歳代）を対象にして、個別でトレーニングを継続しました。	
低栄養の改善	毎月の体重測定を通じて、主治医、看護師、栄養士と連携して通常の食事に加え、栄養補助食品を提供し、健康管理に努めました	

(3) 日中活動

班	活動の状況	販売額
室内援助班	織物（ラグマット等）や手芸（アクリルたわし、ビーズコースター等）の販売は妙義、下仁田道の駅とあい愛プラザの委託販売の継続した結果、前年度並みに収益を上げることができました。	約12万円
農耕班	所属する利用者が減っていく状況と、次世代の担い手不足が続いていますが、顧客に満足いただける様に質の向上を継続しました。安全対策は防御柵の設置を継続し、注意喚起をした結果、事故はなく活動をおこなうことができました。	約214万円
教育治療班 1グループ 2グループ	障害特性（自閉的傾向、統合失調症等）や健康維持（筋力低下や便秘予防）の支援を少グループ編成で実践しました。 ①運動が必要な利用者は林道やグラウンドのウォーキング（1～3km弱）を実践し、雨天時は室内の中でDVDを使い体操を行ないました。 ②創作活動が得意な利用者には絵画や折紙で、作品を制作しました。 ③利用者の希望に添い活動にドライブを取り入れ実践しました。	
教育治療班 4グループ	①高齢者や看護が必要な利用者は看護師、栄養士と連携を図りながら個別の状態に合った支援計画を作成し、日々の支援に取り組みました。 ②長期間療養（寝たきり）が必要な利用者への支援（かかり付け医から余命一ヶ月旨の診断でした）は、主治医の診断に基づいた計画を主体とし、毎日の健康変化に対して、迅速に対応した結果、余命を延長することができ、主治医から評価をいただいています。 ③入院支援は、本人の面会と入院先の病院との連絡調整を行ない、退院後は日常生活に戻るまでの看護やリハビリを行ないました。	
クラブ活動	外部から指導者を招く活動は休止し、ダンスと音楽クラブを継続しました。練習成果は納涼祭やクリスマス会で発表し、あすなろ祭はビデオで撮影し、成果を発表しました。	

(4) 記録方法の改善と活用

日常の気づきの記録に加え、個別支援計画の取り組みにおける記録をより客観性をもたせる取り組みを研究し実践した結果、支援計画の中間評価する上で活用に役立ち、個別記録は保護者が閲覧を希望した際に対応ができる様に保存しています。

(5) 社会参加と社会資源の活用

コロナ禍に合った生活の楽しみとして、毎月、施設内でテイクアウトの機会を設けるとともに、外出先は3密を回避するために、富岡、安中市内の公園等で、気分転換を図りました。

旅行は、日帰り旅行に変更し、群馬県内の観光地（水上町、沼田市、榛名山等）に出かけ喜ばれました。

(6) 自治会(わかば会)活動の活性化

運営委員（利用者）8名、顧問2名（支援員）の構成で、主な事業内容は意思決定支援（旅行候補地の説明会の開催）及び旅行、行事計画の大枠の編成を行ないました。

(7) 奉仕活動

利用者自治会（わかば会）の役員、顧問による「町内幹線道路の空き缶、ごみ回収」はコロナ禍により中止しました。

(8) 地域社会との交流

妙義小学校、高田小学校との交流学习や妙義白雲寮との合同納涼祭は、新型コロナウイルス感染予防のため、止む無く中止し、その他の交流の機会も中止させていただきました。

3. 研修

項目	内容
専門研修	リモート研修（強度行動障害者支援者養成研修等）に参加しました。
職場内研修	施設内の研究委員会や班活動の実績報告を通じて、成果と課題を共有しました。
資格取得	サービス管理責任者、介護実務者等の取得を目指した職員の支援（研修費補助や勤務調整等）を行ないました。

4. 委員会活動

委員会名	内容	
倫 理	職員行動規範	不適切な対応を無くすため、直接処遇職員中心に、周知徹底を図りました。
	ハラスメント対応	相談窓口を設置していますが、相談はありませんでした。体調の異変や基礎疾患を抱える職員には、勤務編成を整えました。
虐待防止	富岡市調査	富岡市に群馬県虐待防止マニュアルに基づいた通報があり、調査の協力を行ないました。
	虐待防止マニュアルの周知徹底	定期的に群馬県虐待防止マニュアルに基づいた手順や防止策を盛り込んだマニュアルの周知徹底を図りました。
	職場内研修	職員が研修で学んだ内容をフィードバックする目的で、研修を行ないました。
事故を考える	日常の取り組み	日常の気づきは定期的に生活支援員が主体で研究した結果、早期対応につなげられました。また、事故の発生時は原因を分析して再発防止策に取り組みました。
	風水害訓練	①利用者は避難訓練を行ないました。 ②職員については第一部として利用者の避難訓練を行ない、第二部としてグループワークを中心とした内部研修を行ないました。
	防犯訓練	新任職員に富岡警察署から指導された対処方法を中心に研修を行ない、さすまたを使った実技訓練を行ないました。
業務継続計画	令和6年度の計画作成の義務化に向けた準備として、自然災害及び感染症対策をまとめ、3月に職員に説明し、周知を図りました。	
食事提供	摂食、嚥下研究会や生活支援員と調理員が連携して、食形態の変化に基づいた効率的な配膳方法や個々の機能に合った食器の提供に努めました。	
居室環境	利用者の意向に添った人間関係の調整は随時行ないました。その他は家電、家具類の点検や消耗品の入れ替えを行ないました。	
感染症予防	①日常的に手洗い、うがいの呼びかけを継続するとともに、10月にノロウイルスを想定した吐物処理の訓練と予防接種（インフルエンザ）を行ないました。 ②新型コロナウイルス対策は厚生労働省のガイドラインに基づいた対策（職員、利用者の健康チェック、消毒、手洗い、うがいの徹底、不要不急の外出の自粛等）を継続しています。また、クラスター対策として、陽性者の罹患を想定した対策の準備を行ないました。	

5. 職場内研修

日	曜日	研修テーマ	参加者	
			職員	外部講師
5/20	木	意思決定支援を考える	20	0
6/17	木	認知症を学ぼう	20	0
10/4	月	Sさんの意思決定支援を考える	14	0
10/25	月	摂食嚥下の原因及び臥床状態の食事介助について	26	1
11/18	木	給食提供委員会	21	0
		障害者虐待防止		
1/21	金	委員会活動報告会	20	0
2/17	木	支援課事業報告会	22	0
3/17	木	業務継続計画(自然災害、感染予防)	22	0

令和3年度苦情解決委員会報告（令和3年4月～令和3年12月）

1、相談を受けた利用者

申し出の方法		利用者	今年度の受付結果	件数
本人から申し出た人		74	未解決	249
職員が声を掛けて話を聞いた人		0	解決	58
			評価点とその他	33
			全受付件数	340

2、苦情・要望の内容と結果

(1) 未解決

No.	内容		件数	理由
1	利用者関係	他利用者の発言	94	周りから指摘されていても続いてしまっている。
2		他利用者の行動	117	
3		利用者間の人間関係	4	
4	職員関係	職員の発言	4	相性の問題による。
5	生活関係	外出・帰省	3	実施できていない。
6		備品に関する	1	改善が出来ていない。
7		私物に関する	2	原因が不明。
8		施設の環境	19	ハード面が改善しないと解決不可。
9		飲食に関する	4	本人の状態も関係している。
10		日中活動内容	1	本人の希望に沿えない。
合計			249	

(2) 解決

No.	内容		件数	結果
1	利用者関係	他利用者の発言	7	委員会による聞き取りと支援員の取り組みによる。
2		他利用者の行動	21	
3		利用者間の人間関係	1	
4	職員関係	職員の発言	4	
5		職員の行動	4	
6	生活関係	施設の環境	17	
7		日中活動	1	
8		飲食に関する	3	
合計			58	